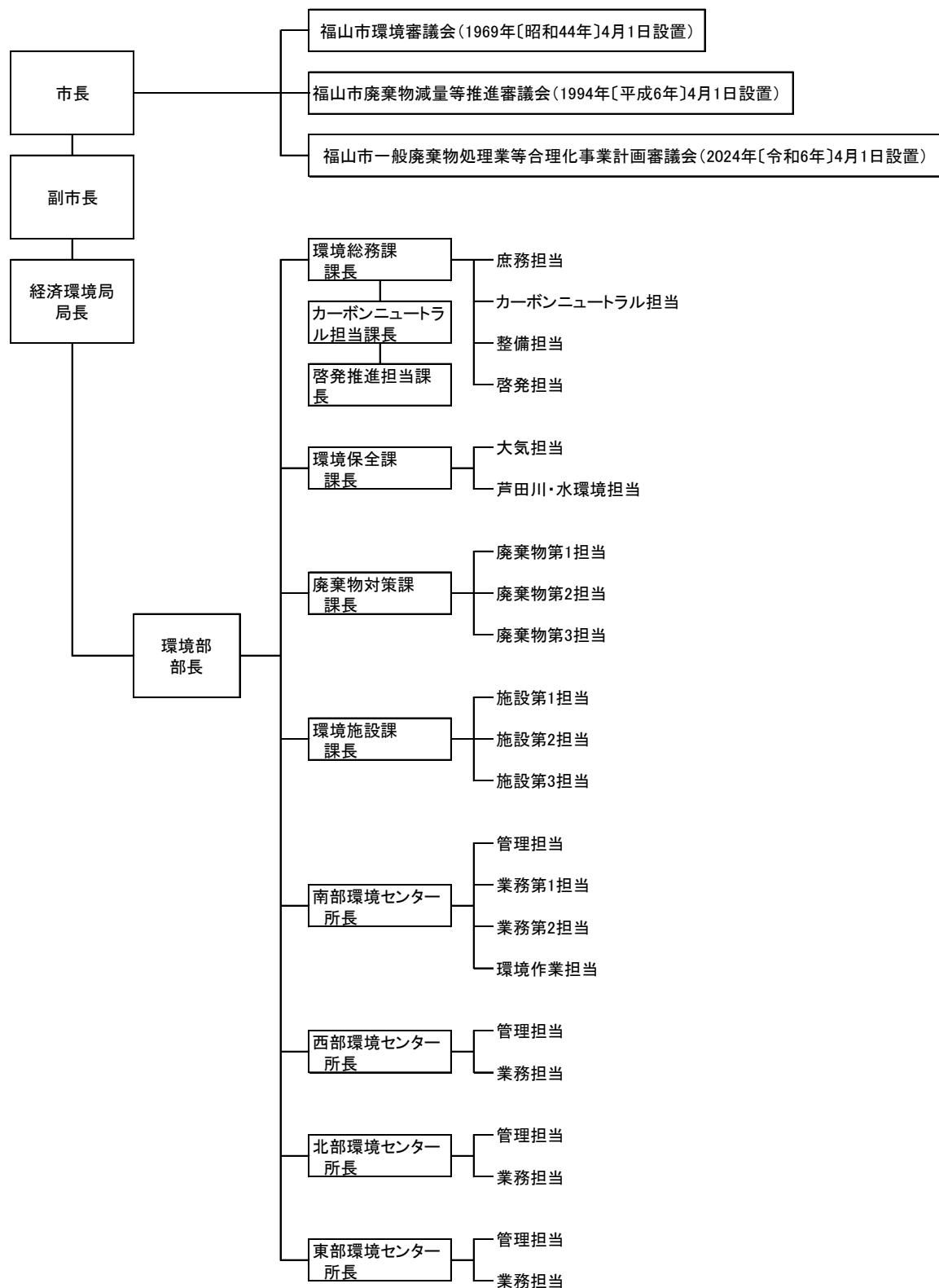


第2章 環境保全、廃棄物処理体制の概要

第1節 機構

1 組織図（2025年〔令和7年〕4月1日現在）



2 職員配置表 (2025年〔令和7年〕4月1日現在)

(単位 人)

部課名	職員数	内訳				備考
		主事	技師	薬剤師	技術員	
環境部	151	38	25	3	85	
環境総務課	19	12	2		5	・職員数に環境部長を含む。 ・外に会計年度任用職員4名
環境保全課	13	1	9	3		
廃棄物対策課	18	11	4		3	・外に会計年度任用職員6名
環境施設課	15		10		5	
南部環境センター	31	5			26	・職員数に再任用（フルタイム）を含む。 ・外に再任用（短時間）2名、 会計年度任用職員16名
西部環境センター	19	3			16	・職員数に再任用（フルタイム）を含む。 ・外に再任用（短時間）2名、 会計年度任用職員12名
北部環境センター	18	3			15	・職員数に再任用（フルタイム）を含む。 ・外に再任用（短時間）1名、 会計年度任用職員12名
東部環境センター	18	3			15	・職員数に再任用（フルタイム）を含む。 ・外に会計年度任用職員11名

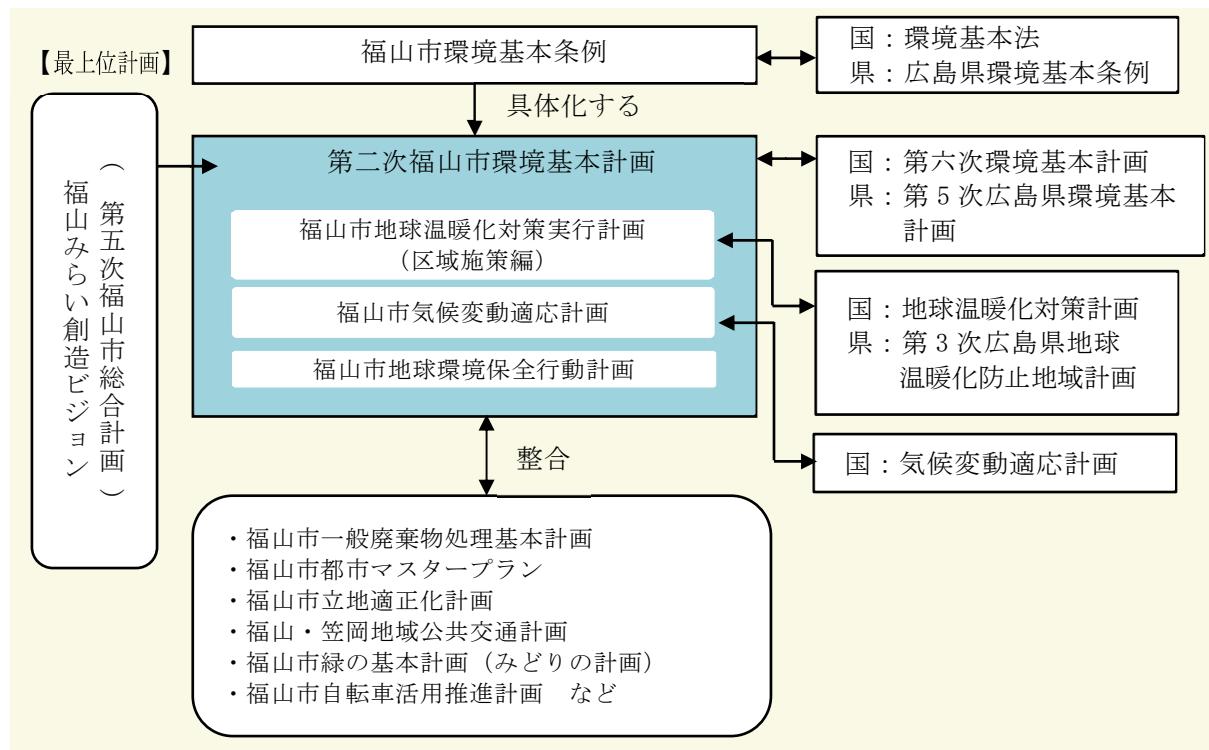
第2節 環境保全体制

1 法令等

国では、1967年（昭和42年）の「公害対策基本法」の制定や、その後における大気、水質、騒音、振動及び悪臭等を規制するための法律並びに廃棄物処理、自然環境保護及び被害救済などの環境関係法令が整備され、環境保全に関しては相当の成果をあげてきました。

しかし、その後の社会経済活動等の発展に伴い、新たに地球環境問題が顕在化してきたことなどから、1993年（平成5年）11月に「環境基本法」が制定され、2024年（令和6年）5月に「第六次環境基本計画」が閣議決定されました。

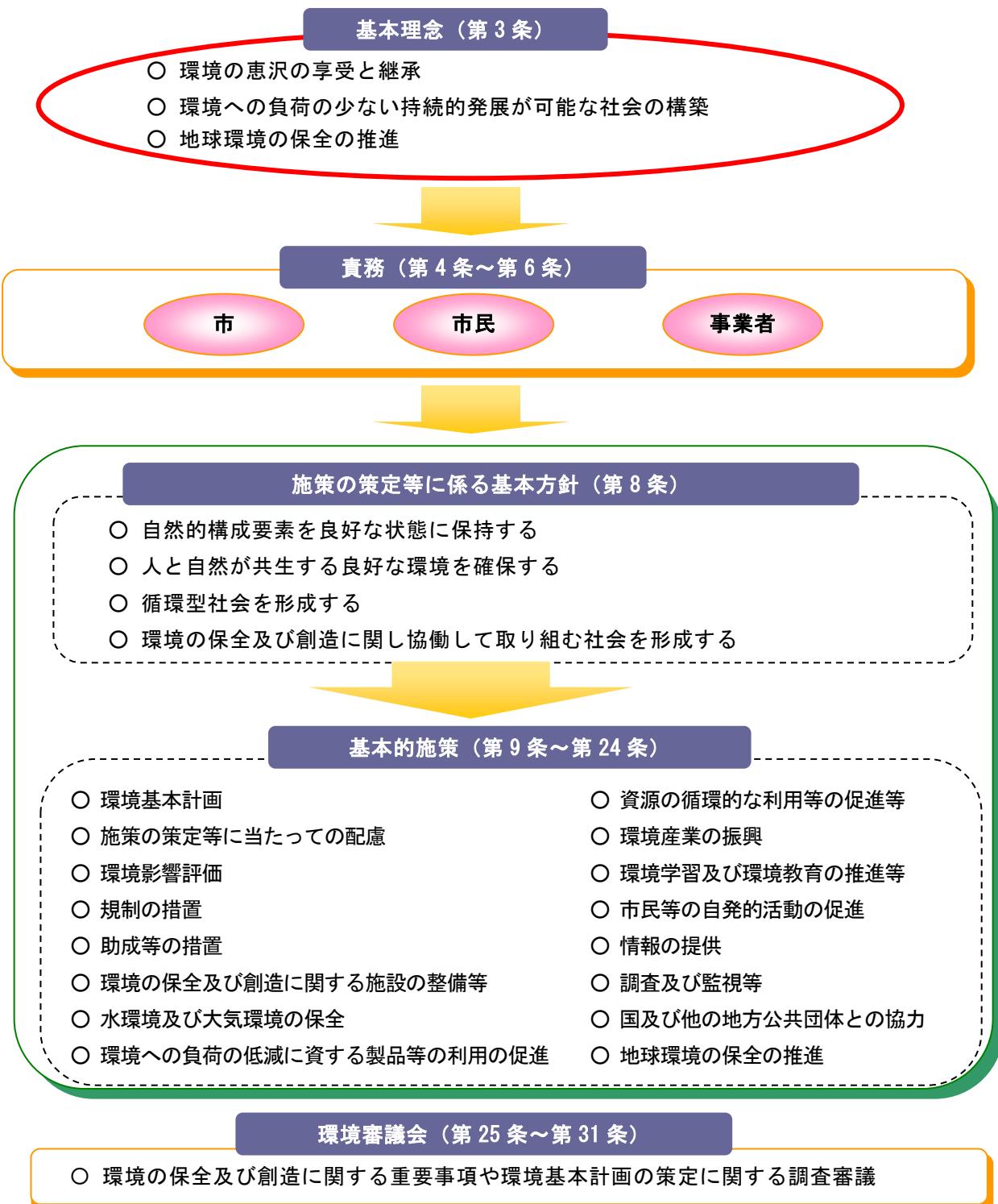
県においては、1995年（平成7年）3月に「広島県環境基本条例」を制定し、広島県の自然的・社会的条件に応じた環境保全施策を、総合的かつ計画的に推進するための枠組みを定めました。



2 福山市環境基本条例

2007年（平成19年）12月に「福山市環境基本条例」を制定し、本市の環境の保全及び創造についての基本理念を定め、市民、事業者、行政の責務を明らかにするとともに、環境の保全及び創造に関する施策の基本事項を定めました。

福山市環境基本条例の仕組み

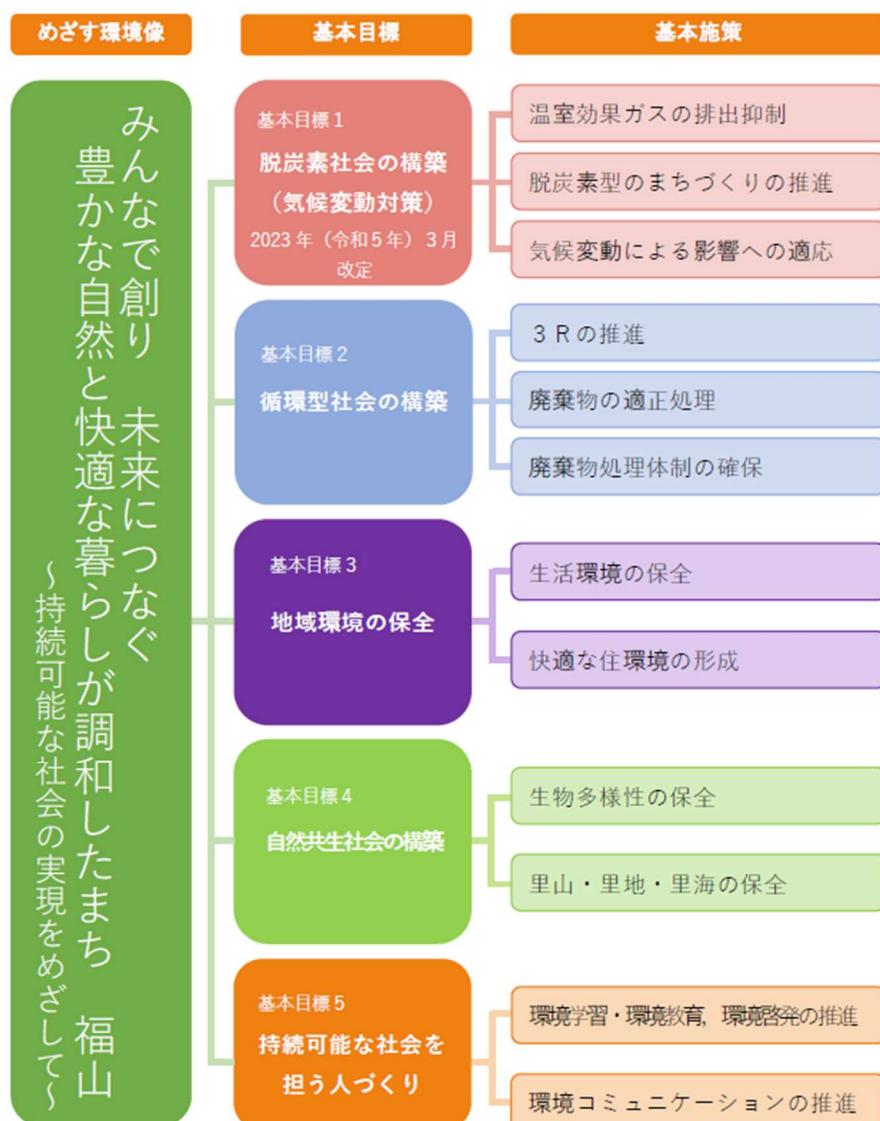


3 福山市環境基本計画

「福山市環境基本条例」第9条に基づいて、2009年（平成21年）3月に、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための「福山市環境基本計画」を策定しました。2024年（令和6年）3月には、「第二次福山市環境基本計画（第1期計画）」の計画期間が終了したことから、「第二次福山市環境基本計画（第2期計画）」を策定しました。

この計画は、福山みらい創造ビジョンのめざす姿「新たな分散型社会の下で、市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市」を環境面から推進するもので、計画期間は、2024年度（令和6年度）から2028年度（令和10年度）までとしています。

第二次福山市環境基本計画の施策体系



（重点プロジェクト）

- ゼロカーボンシティ推進プロジェクト
- 将来を見据えたごみの適正処理推進プロジェクト
- 大気汚染対策強化プロジェクト
- 自然と共生する豊かな社会実現プロジェクト
- 環境パートナーシップ推進プロジェクト

4 福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条第3項に基づいて、本市の自然的・社会的条件に応じ、温室効果ガスの排出の抑制などを総合的かつ計画的に進めるため、2011年（平成23年）3月に「福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定しました。

2019年（平成31年）3月には内容を見直し、「第二次福山市環境基本計画」に統合しました。

5 福山市一般廃棄物処理基本計画

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第6条第1項の規定に基づき、一般廃棄物の減量や処理について、総合的かつ長期的な基本方針を定めた「福山市一般廃棄物処理基本計画」を1992年（平成4年）3月に策定し、一般廃棄物の排出抑制・資源化・適正処理処分を進めています。現行計画は、2016年（平成28年）3月に策定し、2021年（令和3年）3月に改定しました。

市内で排出された一般廃棄物について、収集運搬から最終処分に至るまで、各過程において適正処理に万全を期しています。

基本方針①：市民・事業者・行政の協働によるごみの発生・排出抑制の推進

基本方針②：リサイクルの推進による資源循環型社会の構築

基本方針③：安定的な処理・処分が可能となる体制の構築

6 福山市災害廃棄物処理計画

国の災害廃棄物対策指針を踏まえて、「福山市地域防災計画」や「福山市一般廃棄物処理基本計画」の枠組みのもと、「広島県災害廃棄物処理計画」等と整合を図り、災害時に発生する廃棄物の対策における基本的な考え方と処理実施手順をとりまとめ、2019年（平成31年）3月に「福山市災害廃棄物処理計画」を策定しました。

近年多発する大規模災害に備え、関係団体の協力のもと、生活環境の保全を図りながら、迅速かつ適正な災害廃棄物の処理を行うことをめざしています。

7 芦田川水環境改善アクションプラン

水環境の改善を図るため、流域関係機関で構成する芦田川下流水質浄化協議会において、1996年（平成8年）2月に「水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス21）」を策定しました。

2022年（令和4年）3月には「第Ⅱ期芦田川水環境改善アクションプラン」を策定し、流域関係機関が協力し、浄化用水の導入事業、植生浄化施設、下水道の整備促進、浄化槽の普及促進、生活排水浄化対策などの施策を総合的に推進しています。

○策定経過

1996年（平成8年）2月 「水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス21）」

2003年（平成15年）4月 「第二期水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」

2008年（平成20年）4月 「第二期水環境改善緊急行動計画（変更）」

2012年（平成24年）3月 「第二期水環境改善緊急行動計画（第2回変更）」

2017年（平成29年）3月 「芦田川水環境改善アクションプラン」

2022年（令和4年）3月 「第Ⅱ期芦田川水環境改善アクションプラン」

8 公害防止・環境保全協定

(1) 協定締結の趣旨及び主な内容

本市と企業又は本市・県と企業の間で公害関係法令による画一的な規制を補い、本市の自然的・社会的条件に応じてきめ細かい具体的な防止対策を企業に要請するため、1971年（昭和46年）12月に日本鋼管株式会社（現JFEスチール株式会社）と協定を締結して以来、今日までに企業11社との公害防止（環境保全）協定やゴルフ場開発に関する協定を締結しています。

(2) 主な協定内容

- ア 汚染原因物質の排出基準の設定・遵守
- イ 原燃料の低硫黄化
- ウ 企業の公害防止体制の拡充強化
- エ 産業廃棄物の適正処理
- オ 環境保全（緑化等）対策
- カ 公害関係施設の状況・排出状況の測定結果等の報告、公害関係職員の立入調査の実施

(3) 協定締結企業及び締結年月日

ア 公害防止協定

企業名		締結年月日	備考
市・県と締結	JFEスチール(株)	1971 (S46) . 12. 27	一部変更1982 (S57) . 3. 31
	瀬戸内共同火力(株)	1971 (S46) . 12. 27	
	日本化薬(株)	1976 (S51) . 9. 14	
市と締結	三菱電機(株)	1975 (S50) . 8. 30	福山製作所
	福山ゴム工業(株)	1975 (S50) . 9. 1	
	早川ゴム(株)	1975 (S50) . 9. 1	
	カイハラ産業(株)	1975 (S50) . 6. 21	一部変更1976 (S51) . 3. 10 (合併により承継)

イ 環境保全協定

企業名		締結年月日	備考
市と締結	早川ゴム(株)	1983 (S58) . 12. 16	箕島工場
	シャープ福山レーザー(株)	1983 (S58) . 12. 28	
	山陽染工(株)	1987 (S62) . 2. 3	
	福山バイオマス発電所(同)	2022 (R4) . 1. 17	
	三菱電機(株)	2022 (R4) . 3. 28	パワーデバイス製作所 福山事業所

ウ ゴルフ場の開発事業及び管理に関する協定

企業名		締結年月日	備考
市と締結	備後総合開発(株)	1989 (H元) . 5. 8	一部変更1990 (H2) . 9. 26 (合併により承継)
	備後総合開発(株)	1990 (H2) . 3. 29	(合併により承継)

(4) 工業団地における協定

ア 箕島地区環境保全協定

箕島地区工業団地に進出立地する企業と、本市の地域性に合った公害防止対策を実施するため、法令等よりも厳しい規制や自主測定の義務付けなどを主な内容とする協定や覚書を締結しています。また、土地の売買等による新たな工場の進出についても、公害関係施設の有無など必要に応じて協定や覚書を締結しています。

イ 福山北産業団地環境保全協定

福山北産業団地に進出立地する企業と、本市の地域性に合った公害防止対策を実施するため、低硫黄燃料の使用や廃棄物の適正処理などを主な内容とする協定を締結しています。

ウ 新市工業団地環境保全協定

広島県が事業主体となって開発した新市工業団地に進出立地する企業と旧新市町が、その地域に合った公害防止対策を実施するため、法や県条例より厳しい規制や廃棄物の適正処理などを主な内容とする協定を締結しましたが、合併に伴い本市が承継しました。

エ 神辺工業団地環境保全協定

広島県が事業主体となって開発した神辺工業団地に進出立地する企業と旧神辺町が、その地域に合った公害防止対策を実施するため、法や県条例より厳しい規制や廃棄物の適正処理などを主な内容とする協定を締結しましたが、合併に伴い本市が承継しました。

9 審議会

(1) 福山市環境審議会

環境の保全及び創造に関する重要事項の調査、審議等を行うために、福山市環境基本条例に基づき設置する附属機関です。

委員 20 人以内で組織し、学識経験者、その他市長が必要と認める者のうちから市長が委嘱しており、2025 年（令和 7 年）3 月末現在の委員数は 15 人です。

(2) 福山市廃棄物減量等推進審議会

一般廃棄物の減量等に関する事項について審議を行うために、福山市廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例に基づき設置する附属機関です。

委員 20 人以内で組織し、市民、学識経験者等のうちから市長が委嘱しており、2025 年（令和 7 年）3 月末現在の委員数は 18 人です。

(3) 福山市一般廃棄物処理業等合理化事業計画審議会

下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法に規定する合理化事業計画を策定するため、福山市一般廃棄物処理業等合理化事業計画審議会条例に基づき設置する附属機関です。

委員 10 人以内で組織し、学識経験者、弁護士等のうちから市長が委嘱しており、2025 年（令和 7 年）3 月末現在の委員数は 8 人です。

第3節 施設概要

1 ごみ処理関係施設

(1) 収集・運搬部門

ア 環境センター（直営）

ごみの直営収集は、次の環境センターで実施しています。

名称	所在地
南部環境センター	箕沖町 107 番地 7
西部環境センター	松永町三丁目 1 番 29 号
北部環境センター	駅家町倉光 37 番地 1
東部環境センター	伊勢丘六丁目 6 番 1 号

イ 中継施設・保管施設

ごみ搬送の効率を高めるため、松永地区等のごみを一時貯留し中継するストックヤードを慶応浜埋立地内に設置しています。

また、リサイクルを行うため、紙類などを集積し、一時保管する施設を西部清掃工場地内に設置していましたが、2023年度（令和5年度）末で休止しています。

施設名	慶応浜ストックヤード	西部ストックヤード (休止中)
所在地	柳津町 2285 番地	赤坂町赤坂 521 番地
竣工	2000年（平成12年）9月	2013年（平成25年）9月
施工業者	（有）藤井興業	宮原建設（株）
概要	粗大ごみ置き場 200 m ² 容器包装プラスチックごみ置き場 600 m ² 資源ごみ置き場 600 m ²	3 ヤード 120 m ²
事業費	41,727 千円	24,825 千円

(2) 処理部門

ア 焼却施設

本市においては、2024年（令和6年）3月まで、市内の焼却施設である西部清掃工場、新市クリーンセンター、深品クリーンセンター及びごみ固形燃料工場で燃やせるごみを受入れていましたが、焼却施設の老朽化や福山リサイクル発電事業の終了に伴い、新たな燃やせるごみ及び燃やせる粗大ごみの処理施設である「ふくやま環境美化センター」（呼称：福山ローズエネルギーセンター）を建設し、2024年（令和6年）4月1日から実際にごみを受入れ、試運転を行い、8月から稼働を開始しています。

施設の特徴は、次のとおりです。

- 福山市、府中市及び神石高原町の燃やせるごみ等を広域処理し、ごみ処理施設を集約化することにより、温室効果ガス排出量を削減。
- 燃やせるごみの焼却熱を利用した高効率のごみ発電を行い、発電した低炭素な電力は、本市が出資する地域新電力会社「福山未来エナジー株式会社」を通じて、備後圏域内の公共施設に供給するなど、電力の地産地消を推進。
- 焼却灰や飛灰は、建設資材に全量資源化し有効活用するとともに、最終処分量を削減。

施設名		ふくやま環境美化センター (呼称: 福山ローズエネルギーセンター)
所在地		箕沖町 107 番地 14
敷地面積		40,543 m ²
着工		2021年(令和3年)9月
竣工		2024年(令和6年)7月
施工業者		JEFエンジニアリング(株)中国支店
形式		全連続燃焼式ストーカ炉
能力		燃やせるごみ 600t/24h (200t/24h×3炉) 燃やせる粗大ごみ 16t/5h 発電定格出力 14,500kW (発電効率 最大 27.6%)
事業方式		DBO方式
事業費	工事費	44,841,093千円
	整備費 施工監理費	180,400千円
	計	45,021,493千円
	用地費	395,699千円
	合計	45,417,192千円
整備費 財源	国庫補助金	13,398,820千円
	市債	30,467,400千円
	一般財源	1,155,273千円
処理量(2024年度)		129,255t/年
発電量(2024年度)		86,582,450kWh
運営形態		委託

西部清掃工場、新市クリーンセンター及び深品クリーンセンターは、2024年(令和6年)3月31日までごみを受入れ、2024年度(令和6年度)に施設を閉鎖する際に、そのごみの焼却処理を行いました。

施設名		西部清掃工場 (休止中)	新市クリーンセンター (休止中)
所在地		赤坂町赤坂 521 番地	新市町下安井 3328 番地 6
敷地面積		26,912 m ²	4,000 m ²
着工		1978年(昭和53年)12月	1991年(平成3年)11月
竣工		1980年(昭和55年)8月※	1994年(平成6年)3月
施工業者		(株)タクマ	(株)川崎技研
形式		全連続燃焼式	機械化バッチ式
能力		150t/24h	30t/8h
事業費	施設費	1,765,671千円	1,713,867千円
	用地費	—	—
	計	1,765,671千円	1,713,867千円
財源	国庫補助金	866,551千円	242,249千円
	市債	827,987千円	1,216,200千円
	一般財源	71,133千円	255,418千円
処理量(2024年度)		815t/年	106t/年
運営形態		委託	委託

※1995年度(平成7年度)～1997年度(平成9年度)に基幹改良を実施。

施設名	深品クリーンセンター (休止中)
所在地	神辺町上御領 3000 番地 7
敷地面積	12,300 m ²
着工	1991年(平成3年)12月
竣工	1994年(平成6年)12月
施工業者	日本鋼管(株)
形式	准連続燃焼式
能力	80t／16h
事業費	3,905,714千円
用地費	64,516千円
計	3,970,230千円
財源	国県補助金 646,350千円 市債 2,688,200千円 一般財源 635,680千円
処理量(2024年度)	353t／年
運営形態	委託

イ ごみ固形燃料(RDF)化施設

ごみ固形燃料工場は、2024年(令和6年)3月までごみを受入れ、2024年度(令和6年度)に施設を閉鎖する際に、そのごみを外部処理しました。

施設名	ごみ固形燃料(RDF)工場 (休止中)
所在地	箕沖町107番地7
敷地面積	26,000 m ²
着工	2001年(平成13年)12月
竣工	2004年(平成16年)3月
施工業者	日本鋼管(株)・荏原製作所JV
能力	300t／16h
事業費	10,341,629千円 用地費 233,178千円 計 10,574,807千円
財源	国庫補助金 4,701,884千円 市債 5,287,500千円 その他 241,953千円 一般財源 343,470千円
処理量(2024年度)	1,206t／年
運営形態	委託

ウ 中間処理施設

「資源ごみ」「容器包装プラスチックごみ」「不燃（破碎）ごみ」については、次の施設で選別や破碎等を行い、資源化しています。

施設名	リサイクル工場		
所在地	箕沖町 107 番地 2		
敷地面積	25,500 m ² ※1		
着工	1999年（平成11年）1月		
竣工	2000年（平成12年）9月		
施工業者	日本鋼管（株）		
処理対象物※2	容器包装プラスチックごみ、不燃（破碎）ごみ、燃やせる粗大ごみ		
形式	容器包装プラスチック選別、破碎・選別、圧縮・梱包		
能力	容器包装プラスチックごみ 不燃性ごみ 燃やせる粗大ごみ	45t/5h 115t/5h 10t/5h	
事業費	施設費 用地費 計	7,722,225千円 — 7,722,225千円	
財源	国庫補助金 市債 一般財源	3,761,394千円 3,760,500千円 200,331千円	
処理量（2024年度）	6,695t/年※2		
運営形態	委託		

※1 福山市リサイクルプラザを含む。

※2 福山ローズエネルギーセンターの稼働に伴い、燃やせる粗大ごみの受入れを中止している。

また、2024年11月の火災により工場は休止中であるが、ごみの受入れを行っている。

施設名	内海リサイクルセンター		
所在地	内海町字新道 664 番地 1		
竣工	1996年（平成8年）4月		
処理対象物	不燃（破碎）ごみ		
形式	磁選別・手選別		
能力	1.6t/5h		
処理量（2024年度）	74t/年		
運営形態	委託		

【民間施設】

施設名	福山リサイクルセンター	神辺クリーンセンター
所在地	箕沖町 56 番地 1	神辺町湯野 1540 番地 1
竣工	1986年（昭和61年）4月	1976年（昭和51年）4月
処理対象物	資源ごみ	資源ごみ、不燃（破碎）ごみ
形式	磁選別・手選別	磁選別・手選別
能力	56.2t/8h	25t/8h
処理量（2024年度）	3,993t/年	1,258t/年

工 最終処分場

箕沖埋立地は、選別後の廃棄物（残渣）のほか、町内清掃土も受入れています。

新市埋立地及び深品埋立地は2024年度（令和6年度）の新市クリーンセンター及び深品クリーンセンターの休止に伴い埋立を休止、慶応浜埋立地は2021年度（令和3年度）から埋立を休止しています。

施設名		箕沖埋立地		慶応浜埋立地 (休止中)
所在地	箕沖町107番地4	箕沖町107番地3	柳津町2285番地	
敷地面積	85,000 m ²	165,000 m ²	52,644 m ²	
埋立面積	85,000 m ²	165,000 m ²	41,000 m ²	
埋立容量	628,000 m ³	1,495,000 m ³	155,800 m ³	
供用開始	1989年（平成元年）10月	1978年（昭和53年）5月	1981年（昭和56年）4月	
形 式	サンドイッチ方式	サンドイッチ方式	サンドイッチ方式	
事業費	施設費 355,931千円 用地費 219,201千円 計 575,132千円	— 651,986千円 651,986千円	261,858千円 828,773千円 1,090,631千円	
財源	国庫補助金 市 債 一般財源	— 230,900千円 344,232千円	99,027千円 640,600千円 11,386千円	938,500千円 53,104千円
処理量（2024年度）	7,720t／年			
運営形態	委託		直営	
残余容量	222,463 m ³	0 m ³		

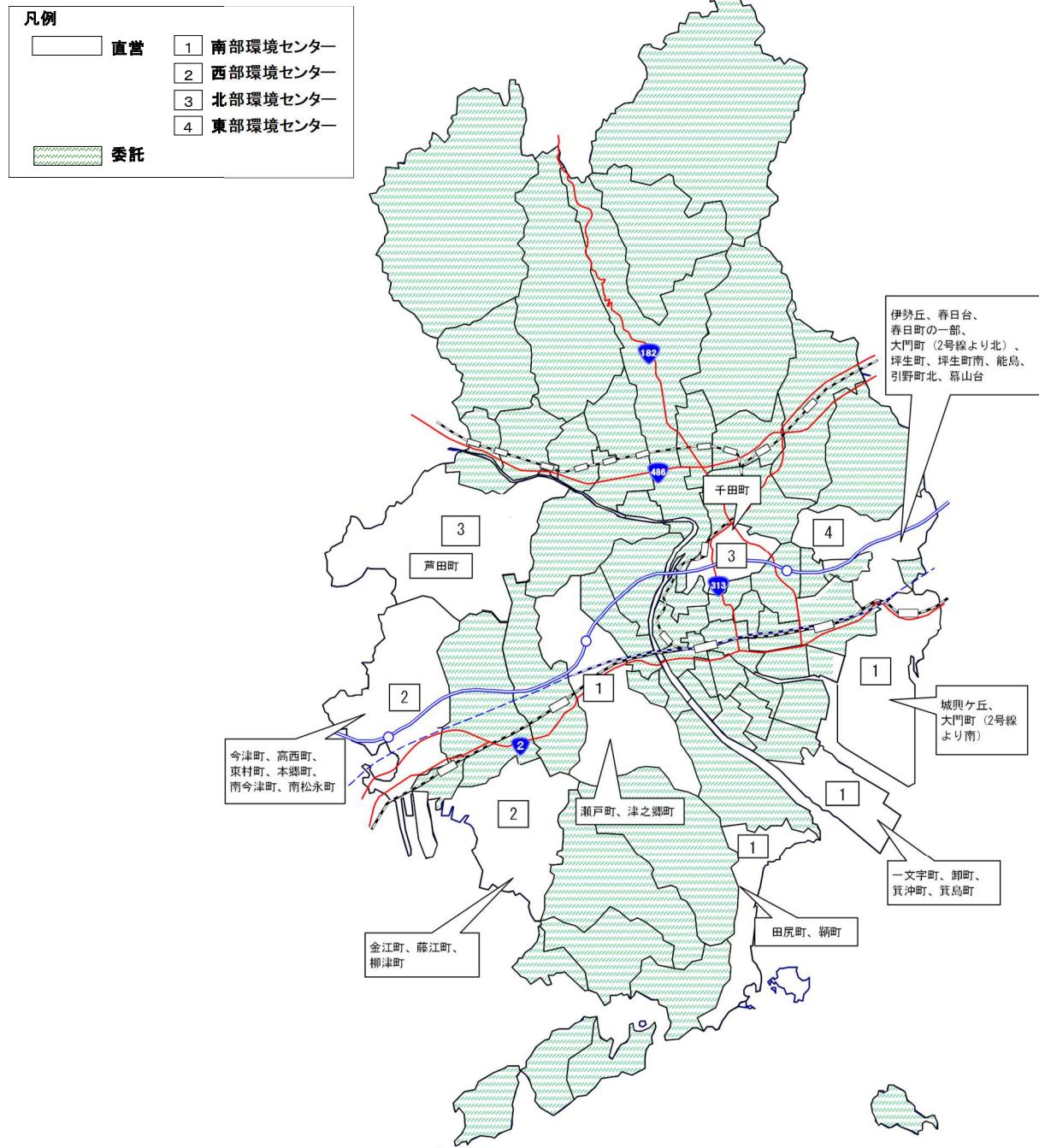
施設名		内海埋立地	新市埋立地 (休止中)	深品埋立地 (休止中)
所在地	内海町662番地	新市町下安井1825	神辺町上御領7300番地	
敷地面積	42,600 m ²	62,644 m ²	42,300 m ²	
埋立面積	3,000 m ²	7,200 m ²	8,700 m ²	
埋立容量	10,700 m ³	60,000 m ³	75,000 m ³	
供用開始	1994年（平成6年）4月	1994年（平成6年）3月	2000年（平成12年）4月	
形 式	セル工法	サンドイッチ方式	サンドイッチ方式	
事業費	施設費 661,685千円 用地費 5,562千円 計 667,247千円	553,111千円 70,557千円 623,668千円	1,274,860千円 58,652千円 1,333,512千円	
財源	国庫補助金 市 債 一般財源	117,109千円 478,400千円 71,738千円	191,864千円 402,800千円 29,004千円	454,206千円 799,800千円 79,506千円
処理量（2024年度）	26t／年	26t／年	69t／年	
運営形態	委託	委託	委託	
残余容量	5,106 m ³			

（3）環境啓發施設

福山市リサイクルプラザ（愛称：エコローズ）に、リサイクル体験学習や情報提供の場を設け、温暖化対策やごみ減量・リサイクル推進等の環境啓発を推進しています。

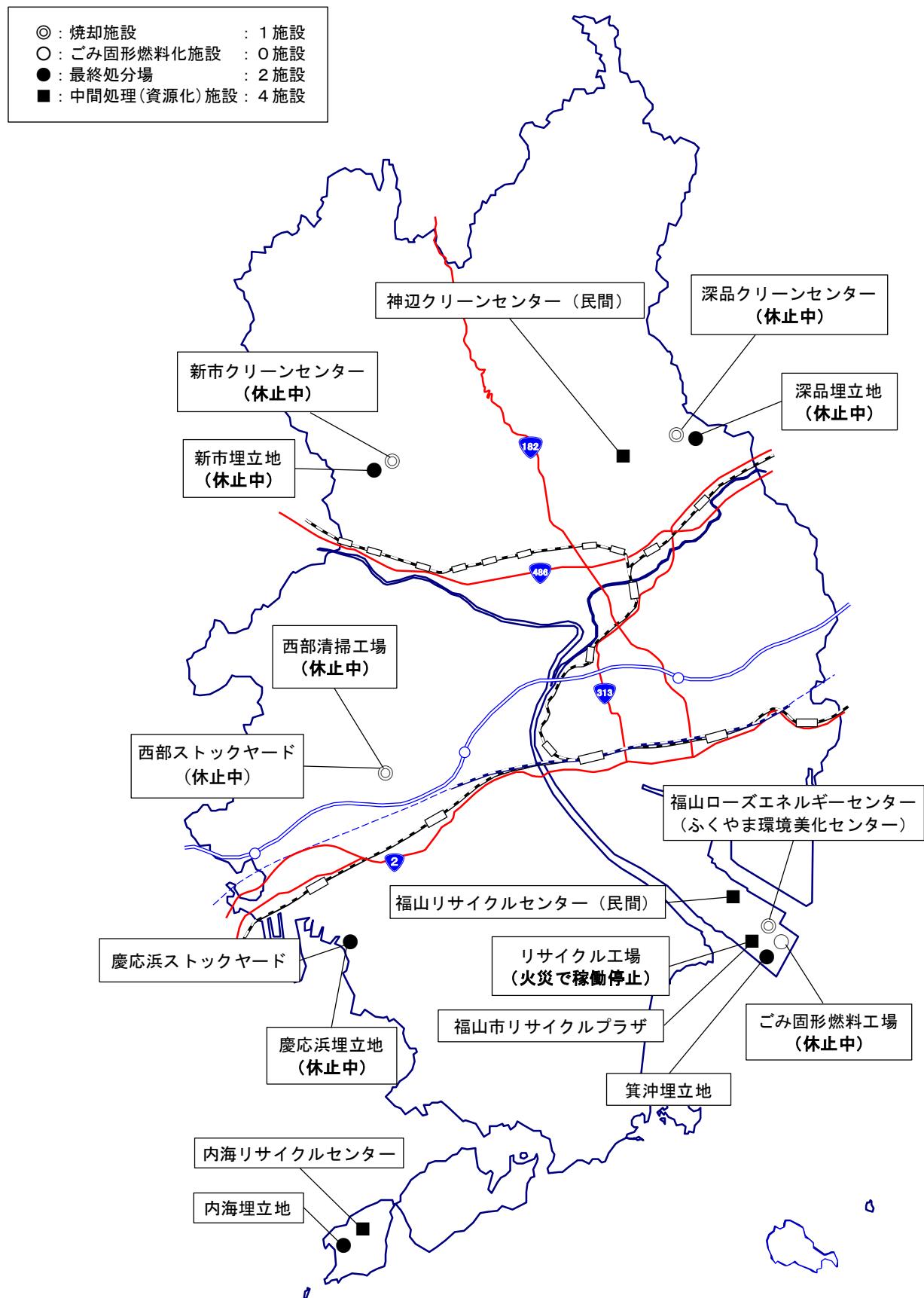
施設名	福山市リサイクルプラザ（愛称：エコローズ）				
所在地	箕沖町 107 番地 2	建築面積	776.49 m ²	延床面積	1,486.67 m ²
2階	自然共生エリア、リサイクル体験室、研修室、会議室、和室				
1階	次世代エネルギーパーク サテライト施設情報展示エリア、循環型社会エリア、低炭素エリア、修理再生室、事務室など				
その他	雨水利用設備（地中 10t）、ハイブリッド（太陽光・風力）独立型街灯（3 基） 太陽光発電設備（最大 30 kW/h）				

○所管別収集区域



○ごみ処理施設等の位置

【2025年（令和7年）3月31日現在】



2 し尿処理関係施設

市内から排出されたし尿及び浄化槽汚泥は、汚泥再生処理センター（呼称：Kanadevia 箕沖 Aqua）、西部衛生センター、内海し尿処理場及び走島し尿処理場で処理されます。

し尿等の搬送の効率を高めるため、し尿等を一時貯留し、中継する新市中継施設、新浜中継施設、深品中継施設、山野貯留槽、芦田貯留槽を市内に設置しています。

（1）し尿・浄化槽汚泥処理施設

施設名	汚泥再生処理センター (呼称：Kanadevia 箕沖 Aqua)	西部衛生センター
所在地	箕沖町 107 番地 2	松永町七丁目 2 番 31 号
着工	2010 年（平成 22 年）9 月	1977 年（昭和 52 年）4 月
竣工	2013 年（平成 25 年）3 月	1978 年（昭和 53 年）7 月
施工業者	アタカ大機（株）	栗田工業（株）
形式	膜分離高負荷脱窒素処理 +高度処理、助燃剤化	標準脱窒素処理+高度処理
能力	200 k1/日	150 k1/日
事業費	2,499,704 千円	本体 1,268,000 千円 附帯 701,867 千円
処理量（2024 年度）	60,282 k1/年	26,744 k1/年
運営形態	委託	委託

施設名	内海し尿処理場	走島し尿処理場
所在地	内海町岩谷 2540 番地	走島町道閑 11 番地
着工	1991 年（平成 3 年）3 月	1976 年（昭和 51 年）2 月
竣工	1993 年（平成 5 年）12 月	1977 年（昭和 52 年）3 月
施工業者	三井造船エンジニアリング（株）	三菱重工（株）
形式	膜式高負荷脱窒素処理	好気性消化処理
能力	31 k1/日	2 k1/日
事業費	1,344,148 千円	152,687 千円（用地費用を含む。）
処理量（2024 年度）	7,941 k1/年	167 k1/年
運営形態	委託	委託

（2）し尿貯留槽

施設名	所在地	容量
山野貯留槽	山野町山野 4206 番地 3	22.5 m ³
芦田貯留槽	芦田町福田 268 番地	40.0 m ³

（3）し尿中継施設

施設名	新市中継施設	新浜中継施設	深品中継施設
所在地	新市町相方 78 番地	新浜町二丁目 3 番 3 号	神辺町川南 81 番地 1
着工	2012 年（平成 24 年）11 月	2012 年（平成 24 年）12 月	2015 年（平成 27 年）9 月
竣工	2014 年（平成 26 年）3 月	2014 年（平成 26 年）7 月	2017 年（平成 29 年）3 月
施工業者	富士建設（株）	（株）鈴木工務店	富士建設（株）
貯留能力	140 k1	240 k1	490 k1
事業費	137,471 千円	252,912 千円	455,090 千円
運営形態	委託	委託	委託

○し尿処理施設の位置

